

用紙受容装置

実開平5-1755

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-1755

(43)公開日 平成5年(1993)1月14日

(51)Int.Cl. ⁵ B 65 H 31/30 31/20 31/34	識別記号 F I	府内整理番号 7309-3F 7309-3F 7309-3F	技術表示箇所
---	-------------	---	--------

審査請求 未請求 請求項の数1(全3頁)

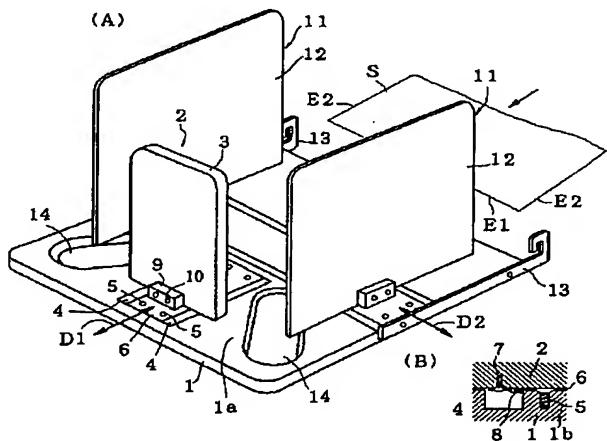
(21)出願番号 実願平3-57158	(71)出願人 000250502 理想科学工業株式会社 東京都港区新橋2丁目20番15号
(22)出願日 平成3年(1991)6月26日	(72)考案者 中山 幸治 東京都港区新橋2丁目20番15号理想科学工業株式会社内
	(72)考案者 高橋 靖宏 東京都港区新橋2丁目20番15号理想科学工業株式会社内
	(74)代理人 弁理士 明石 昌毅

(54)【考案の名称】 用紙受容装置

(57)【要約】

【目的】 用紙受容装置に受止められた用紙積重ね体の取出し当って用紙積重ね体を手にて掴むことを容易にするよう用紙受容装置を改良すること。

【構成】 基台の上面に種々のサイズの用紙が受止められた時各サイズの用紙の角が位置する領域に延在する窪みを設ける。



用紙受容装置

実開平5-1755

【実用新案登録請求の範囲】

平らな上面を有し受止められた用紙を下から支える基台と、前記基台に装着され該基台の上面に受止められた長方形の用紙の少くとも二つの片に当接する少くとも二つの衝壁手段とを有し、前記衝壁手段の少くとも一つは前記基台の上面に沿って選択的に移動可能であり且選択された位置に固定可能であり、予め定められた複数のサイズの用紙の何れにも選択的に適合し、一枚ずつ送られてくる用紙を受止め、その四辺を揃えつつこれを順次積重ねられた状態に保持する用紙受容装置にして、前記基台には用紙が前記複数のサイズの何れの場合にも前記衝壁手段によって該基台上に位置決めされた用紙の一つの角を含む領域にあるよう前記基台の上面に沿って延在する窪みが設けられていることを特徴とする用紙受容装置。

【図面の簡単な説明】

【図1】本考案による用紙受容装置の一つの実施例を示し、図のAの部分はその斜視図、図のBの部分はその一部の拡大断面図である。

【図2】図1の実施例に於ける窪みと用紙のサイズによる受入れ位置の変化の関係を示す解図である。

【図3】本考案による用紙受容装置の他の一つの実施例を示す斜視図である。

【図4】図3の実施例に於ける窪みと用紙のサイズによる受入れ位置の変化の関係を示す解図である。

05 【符号の説明】

1…基台

1 a…基台の上面

2…第一の衝壁手段

3…板部材

10 4…溝

5…ねじ

6…金属板

7…ねじ

8…爪要素

15 9…ブロック

10…ねじ

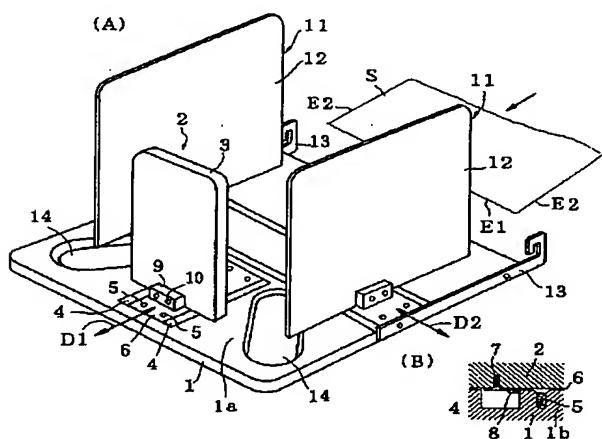
11…第二の衝壁手段

12…板部材

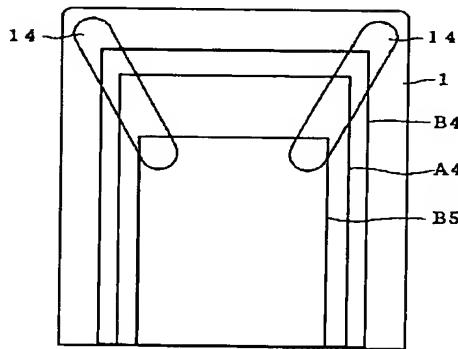
13…フック要素

20 14…窪み

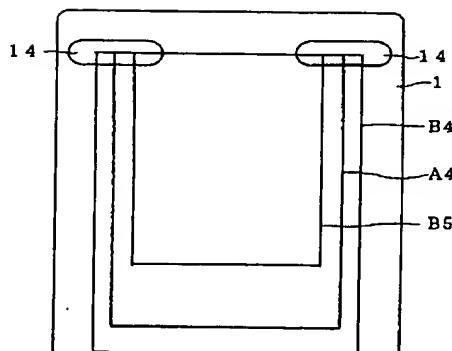
【図1】



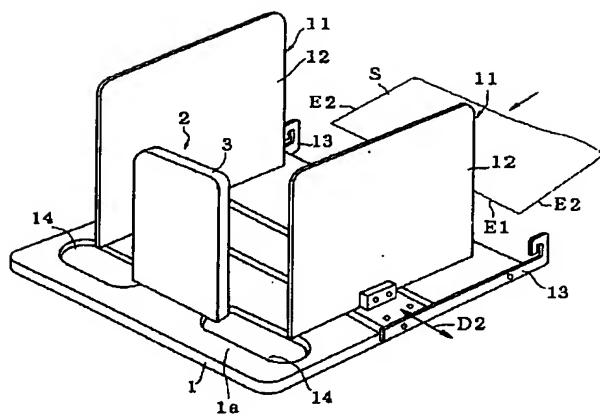
【図2】



【図4】



【図3】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、印刷装置により印刷を施されて順次排出される用紙の如く、一枚ずつ送られてくる長方形の用紙を受止め、その四辺を揃えつつこれを順次積ねられた状態に保持する用紙受容装置に係り、特に用紙のサイズがA3、B4、A4、B5の如き幾つかのサイズの間に切換られる場合にも、その何れにも選択的に適合して用紙を受止めることのできる用紙受容装置に係る。

【0002】

【従来の技術】

印刷装置等に組合わされ、順次排出されてくる用紙を受止めで用紙を四辺の揃った積重ね体とする装置として、平らな上面を有し受止められた用紙を下から支える基台と、前記基台に装着され該基台の上面上に受止められた用紙の少くとも二つの片に当接する少くとも二つの衝壁手段とを有し、前記衝壁手段の少くとも一つは前記基台の上面に沿って選択的に移動可能であり且選択された位置に固定可能であり、予め定められた複数のサイズの用紙の何れにも選択的に適合し、一枚ずつ送られてくる用紙を受止め、その四辺を揃えつつこれを順次積重ねられた状態に保持する用紙受容装置にして、前記基台には用紙が前記複数のサイズの何れの場合にも前記衝壁手段によって該基台上に位置決めされた用紙の一つの角を含む領域にあるよう前記基台の上面に沿って延在する瘤みが設けられることを特徴とする用紙受容装置によって達成される。

【0003】

【作用】

上記の如く、前記基台に用紙が予め定められた複数のサイズの何れの場合にも前記衝壁手段によって該基台上に位置決めされた用紙の一つの角を含む領域にあら、それに応じて用紙の角の位置が種々に変る場合にも、用紙の一つの角は前記瘤みに重なり合って位置するので、用紙積重ね体の取出しに当つて、この瘤みの中に指先を差し入れることにより、用紙積重ね体をその角の位置にて容易に且確実に掴むことができる。

【0004】

【実施例】

以下に添付の図を参照して、本考案を実施例について詳細に説明する。

【0005】

図1は本考案による用紙受容装置の一つの実施例を示し、そのうち図の(A)

は斜視図である。図に於て、1は基台であり、その上面1aにてこの上に順次積重ねられる用紙を支持するようになっている。用紙は、図にてその送り方向先端

部がS1にて示されている如く、矢印の方向に送られてくる。

【0009】

基台1には、第一の衝撃手段2が基台1の上面1aに沿って矢印D1にて示す方向に選択的に移動可能であり且選択された位置に固定可能に取付けられ、用紙Sの一辺E1に当接して用紙を矢印D1の方向に沿って位置決めるようになつている。第一の衝撃手段2は、基台の上面1aに対し垂直に延在する板部材3と、その下端を基台1に対し矢印D1の方向に移動可能に取付ける摺動係合部とを有している。この摺動係合部は、図1の(B)にもより詳細に示す如く、基台1の上面1aに沿って矢印D1の方向に延在するよう切込まれた一对の溝4と、基台1の一対の溝4の間に残された帶状部1b上に一对の溝4上に幾分突出するようになじ5によって取付けられた薄い金属板6と、板部材3の下面にねじ7によつて取付けられ金属板6の溝4内へ突出した両縁部に係合する爪要素8とを含んでおり、かかる爪要素8が一対となつて一対の溝4内へ突出した金属板6の両縁に係合してこれを板部材3の下面との間に挿み込むことにより、金属板6に沿つてその任意の位置に移動し又そこに摩擦接触により保持されるようになつている。板部材3の下端の両側には一対のプロック9がねじ10によって固定されており、基台1に対する板部材2の移動可能な取付け構造に於て、板部材3に対しその面に垂直方向に作用する外力に対する該板部材取付け構造の剛性を増すようになっていいる。

【0010】

基台1には更にその上面1aに沿つて矢印D1の方向に対し直角の矢印D2の方向に選択的に移動可能であり且選択された位置に固定可能である第二の衝撃手段11が設けられている。図示の実施例に於ては、かかる第二の衝撃手段11が用紙Sの両側縁E2に当接するよう一対として設けられている。これら第二の衝撃手段11の板部材12が基台1に対し摺動可能に取付けられる要領は、第一の衝撃手段に於ける板部材3に関する取付け構造と同じであつてよいので、その詳細な説明は記述の重複を避けるため省略する。

【0011】

基台1の両側縁には、該基台を図には示されていない印刷機の排紙口に取外し

可能に取付けるための一対のフック要素13が固定されている。

【0012】

以上に説明した用紙受容装置の構造は從来技術の範囲内のものである。

【0013】

本考案によれば、基台1には第一の衝撃手段2及び第二の衝撃手段11によつて基台1上に位置決めされた各サイズの用紙の角を含む領域に該基台の上面に沿つて延在する瘤み14が設けられている。図示の実施例に於ては、瘤み14は用紙の送り方向先端の両側の角に対応して一対として設けられている。

【0014】

図2は、これらの瘤み14の形状及び配置を基台1上に受止められる用紙のサイズとの関係に於て解説的に示す図であり、図1に示す装置を上方から見た平面図に対応している。図1には示されていないが、基台1の上面1aには用紙の各サイズに対応して第一の衝撃手段2及び第二の衝撃手段11を位置決めすべき位置を示す印が施されており、これらの印に従つてその時受入れるべき用紙のサイズに合せて第一の衝撃手段2及び第二の衝撃手段11の位置決めが行われる。かかる位置決めによって、図2に示す如く、例えばB4、A3、B5の各サイズの用紙は、それぞれ図の線B4、A4、B5にて示されている位置に受けられる。そして一対の瘤み14は、これらの位置に受けられた各サイズの用紙の角の部分を含む領域に基台の上面1aに沿つて延在するよう設けられている。従つて、これらサイズの何れの用紙が使用される場合にも、基台1上に受けられた用紙の積重ね体を取出す時には、手の指先を瘤み14に沿つて用紙積重ね体の下に差込むことができ、用紙積重ね体を上下方向から確実に握んで取出すことが容易となる。

【0015】

図3は、本考案による用紙受容装置の他の一つの実施例を示す図1の(A)と同様の斜視図であり、図4は、この実施例に於ける各サイズの用紙の基台上に於ける受止め位置と瘤みの關係を示す図2と同様の解説図である。

【0016】

この実施例に於ては、第一の衝撃手段2は固定式に構成されており、何れのサ

イズの用紙もその送り方向に於ては、それぞれの送り方向先端が第一の衝壁手段2の板部材3に当接する迄進行するようになっている。これに対応して筐体14は第一の衝壁手段2の板部材3の延在方向と同じ方向に延在している。

【0017】

【考案の効果】

以上の実施例についての説明からも一層明らかに、基台上に少くとも一つが位置調節可能である少くとも二つの衝壁手段によって幾つかの異なるサイズの用紙が位置決めされた状態にて積重ね状態に受けられる場合にも、これら各サイズの用紙の角部を含む領域に延在する筐体を基台の上面に沿つて設けておくことにより、何れのサイズの用紙の積重ね体に対しても、それを取出すに当つて、その下に指を差し入れるための隙間を与えることができ、用紙積重ね体を容易に且用紙に損傷を与えることなく取出すことのできる用紙受容装置が得られる。